

# 事業所における自己評価総括表

事業所名	LITALICOジュニア新大阪教室 児童発達支援
事業者向け自己評価表作成日	2025年10月30日（木）
自己評価総括の担当者	畠山、加納、稻澤

	実施期間	有効回答数(回答者数)	有効回答数(対象者数)
保護者評価	2025年7月18日（金） - 8月28日（木）	48	49
従業員評価	2025年7月18日（金） - 8月28日（木）	7	7

## 各評価を受けて事業所内で分析した強みと弱み

事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること
「8. 活動プログラムが固定化しないよう工夫されていますか。」左記の項目において8割以上の保護者の方より「はい」と回答を頂いている。また従業員のアンケートにおいて「⑭活動プログラムの立案をチームで行っているか」の項目で9割以上の従業員が「はい」と回答している点から、活動プログラムについて日々担当する指導員が検討することができている点が強みだと考える。	個別支援計画はお子さまの状況やニーズに合わせて適切に作成されていると感じますかと言う項目において「どちらでもない」の回答が56%を占めている。また、従業員のアンケートでは「アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、通所支援計画を作成しているか」という項目において9割以上の従業員が「はい」と回答している点から認識の乖離があると思われる。そのため、保護者さま、お子さまの日常生活で感じる困りやニーズのヒアリング力が弱みだと考える。

## 過去の取り組みや課題の振り返り

工夫していることや意識的に行っている取組等	事業所として考えている課題の要因等
就学前小集団等の担当者を置き、毎月活動の内容を検討する機会を設けるようにしている。	・支援提供時に外出される方が多く支援提供時にお子さんの支援について話をする機会を設けることが難しかったり曜日によっては集団支援のフィードバック際にまとまったヒアリング時間が取れなかったりしているため。 ・日々の保護者さまとのやり取りや支援の様子などに関する情報が教室全体で把握できていない可能性がある。 ・年度が変わったタイミングで長年いた児童発達管理責任者や指導員の異動が発生したことにより、今年度の上期は保護者さまとの信頼関係を構築を行う必要があり、ニーズや困りを引き出すことが難しかった。

## さらなる充実と改善への取り組み

さらに充実を図るための取組等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
現状、担当指導員が中心になって考えることが多いが、お子さまにかかる全スタッフが小集団の支援について振り返ったり、お子さまの様子から活動を考えたりすることができるよう教室で振り返りを行う時間を設定する。	・日々の保護者さまの発信や悩みを教室全体でキャッチし、必要に応じて家族支援の提案を行うなど、ヒアリングできる機会を作るようとする ・共有をする文化の定着を図るために研修等を行ったり、フォーマットを決めたりする中で指導員間での共有がより密に行われるようしていく ・教室の指導員全体でお子さまの共有を確認できる機会を設ける